



学校だより

たんきゅうしゃ 探究者たち

がっこうちょう いしかわ ひでこ
学校長 石川 秀子

校庭の陽だまりで遊ぶ子どもたちは温かそうですが、サクラの木には赤く染まった葉が枝に少しだけ残り、冬の到来を知らせているようです。

10月の末から11月にかけて、各学年では校外学習に出かけることができました。個別支援学級がシーパラダイスへ、1年は森林公園、2年も森林公園、3年が山頂公園、5年は愛川方面、そして6年は荒崎鎌倉方面へ出かけてきました。(4年は既に、春にコンサートとこども科学館へ出かけています。) 感染症予防対策を取りながらの実施の様子は、子どもたちから各ご家庭に伝わっていることと思います。久しぶりに広々とした場所に出て見る景色は、また違って見えたのではないのでしょうか。活動内容の計画やスローガンづくり等、当日の活動だけではなく事前の活動にも取り組むことで、それぞれの仲間づくりや思い出づくりにもつながったことでしょう。また、この体験が今後の学校生活への活力にもつながるよう支援していきたいと思えます。

11月19日(金)は、天体ショーが見られました。赤茶けた月の一部が三日月に輝く部分月食が珍しく思えて、山手駅舎の上に浮かぶ部分月食を正面から見つめていました。「この感動を誰かに伝えたい」と思わず写真を撮りましたが、画像の中の月は、肉眼で見る不思議さをストレートには表しきれないように思いました。

各児童にiPadが渡され、学習活動中のノートとしても、資料検索にも、情報共有にも使われ、その道具としての便利さを実感する毎日です。しかしある時の研究授業の際に、講師の先生から「iPadなどは便利な道具ですが、観察など子どもたちの実体験を大事にしてほしい。」というお話をいただきました。立野の子どもたちの姿を見ていると、便利な機器をうまく利用しながらも、調べただけで分かったつもりにならないことに感心させられます。実際に試したり、触ったり、実験したり、育てたりする活動に価値を見出して、楽しく取り組んでいます。

「この実験から、結論を出してよいのか」と話し合う場面にもたくさん巡り合います。大切に育てているカマキリを飼育箱の中から出して見せあったり、「もう弱ってきてしまったので、今日でサヨナラなの。外に帰してあげるの。」とバッタを自分の髪につかまらせながら話していたり、「昨日より遠くへ飛ぶようになったよ。」とドングリで作った弓矢を飛ばして作り方を工夫したり、一人一人が探究者です。

子どもたちの活動の様子を12月に授業参観を行って、保護者の皆様に見ていただく予定です。感染症の流行は下火になりつつあるとのことですが、密集・密接を避けるため、各ご家庭1名でご参観ください。校内は換気を行っていますので、どうぞ寒くないような服装でご来校ください。

12月に入りますと、一段と寒さも感じられるようになります。地域の皆様・保護者の皆様も健康に留意されてお過ごしください。今月もよろしくお願いたします。